

諏訪地方の 経済概況 速報

2016.09

2016年8月末調査／2016年9月29日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫

SUWA SHINKIN BANK

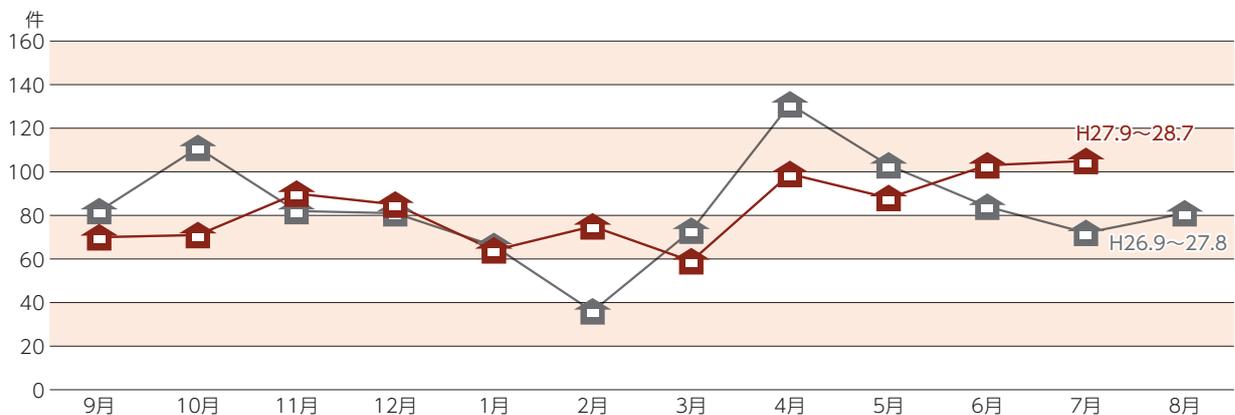
諏訪地方の概況

8月は、内閣府発表の4～6月期のGDP速報値が、住宅投資や公共投資の伸びなどで、年率換算0.2%と2期連続増となったが、世界経済の不透明感や円高などを背景に、設備投資や輸出が振るわず、訪日客消費も3年半ぶりにマイナスとなった。リオ五輪も国内の消費全体を押し上げるまでの力には乏しかった。諏訪地方では、製造業が企業によって受注に格差があるものの、総体的には横ばい状況で推移している。非製造業は商業に競争激化が見られ、シーズン最盛期の観光業は海外からの旅行客が減少傾向となった。建設業は公共工事の発注増などで諏訪大社御柱祭期の停滞は脱してきている。

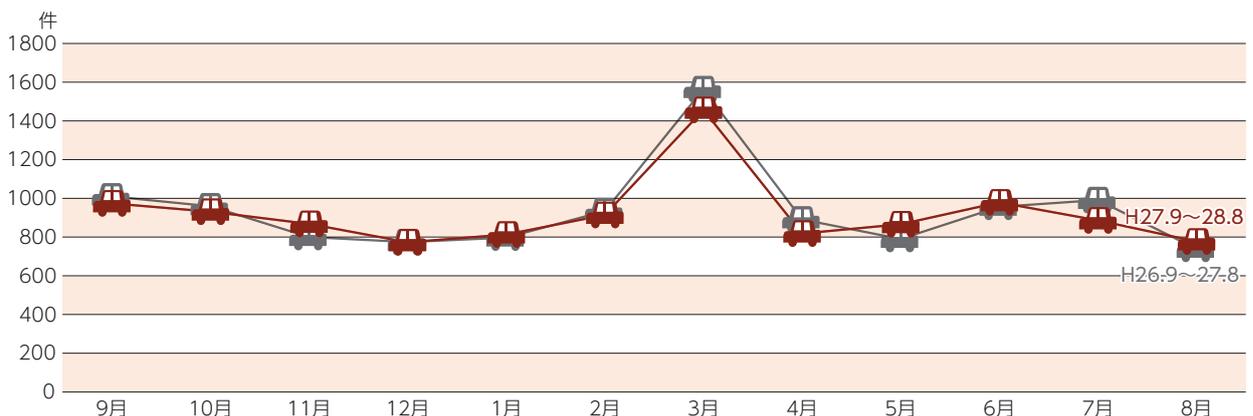
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【7月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.43倍	0.19ポイント	
手形交換高【8月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,329枚	652枚	
	金 額	8,498百万円	351百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	6枚	6枚
		金 額	4,629千円	4,629千円
電力使用量【8月】(中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	40,269MWh	△10.8%	
	高圧電力計	93,788MWh	△2.6%	
	合 計	134,057MWh	△5.2%	
車庫証明取扱件数【8月】(諏訪地方合計)		777件	5.1%	
新設住宅着工戸数【H28年4～7月】(諏訪管内)		395戸	1.3%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



■車庫証明件数の推移



英国のEU離脱問題で乱高下した市場は落ち着きを見せ、一時の不安は薄らいだものの、中国や新興国経済の景気下振れや円高などの影響で先行き不透明感は続いている。月ごとに受注の変動が大きかったり、受注の継続が不安定な企業もあり、8月は総体的に先の見通しを読みにくい状況となっている。輸送用機械の自動車部品関連は、総体的に低調に推移している。燃費データ不正問題再燃の影響もある。ただ、車種によって差があり、試作見積りが多い企業では今後の回復見込みを感じる企業もある。金属製品加工は、取引先によって増減の波が大きい傾向が続いている。一般機械は、省力化機械などで好調が続く、工作機械は総体的に低調に推移している。電気機械は、スマートフォン関連や一部半導体関連装置などに好調な動きがある。精密機械は、車載カメラ関連や監視カメラ関連、半導体装置関連部品が堅調に推移している。円高の影響でコストダウン要請もある。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	受注が減少した取引先分を他の取引先で補うなど、業界全体の動向は受注の波が激しく、安定した受注の確保が難しい状況が続いている。小ロットで精度の高い加工の注文が増加している。年初から増加傾向だった海外からの回帰分が、為替の影響で一部高級品以外は再流出し、今後も減少予想の企業も見られる。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	大手企業の設備更新需要に加えて、製造業では労働力が不足気味で、省力化機械への需要が高まっている。検査機械、搬送用機械関連とともに、依然好調に推移している。ただ、国内向けの自動車関連は低調。一方、海外向けは北米の受注が比較的回復しているが、中国、タイ、シンガポールなどアジア向けは依然低調に推移している。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	光通信、携帯電話、LED関連は好調に推移している。一部プリンターも好調。ただ、主要取引先以外の受注がなかったり、主力先の落ち込みを他取引先でカバーするなど、企業によって状況は違うものの、受注の増減が大きいと感じる企業が多い。今後の受注動向にも不透明感がある。中国の関連子会社が現地経済減速の影響を受け、中国を閉鎖して他国への進出を図る企業もある。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車業界は総じて厳しい状況で、在庫調整やコストダウン要請がある。燃費データ不正問題の再燃で、三菱自動車関連の受注がゼロになった企業もある。ただ、メーカーや輸出先などによっては受注が増加した企業がある。増加傾向となっている試作の見積り内容から見て、年末にかけて受注は回復に向かうと見る企業もある。熊本地震でストップしていた取引先がある企業の受注は、おおむね回復してきている。船外機は、北米向け高機能機種への伸びが悪いが、2ストロークエンジンは新興国向けで好調な動きとなっている。農機・建機は国内、海外生産とも減少傾向で推移している。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	車載カメラや監視カメラ関連の受注は堅調に推移している。地元企業からの発注も多く、総体的に回復傾向だが、力強さに欠けて不安定な面もある。技術力がある企業の受注が増加する一方で、コストダウン要請もある。また、取引先の販売が欧州向けが多い企業には、欧州情勢が懸念材料となっている。材料の輸入で、円高の恩恵を受けている企業はある。
製造業全般	寒天の売上は、気象要因に左右されることが多いが、道の駅の売上が好調。遠方からの電話注文も多くリピーターも増加している。味噌は売上減少期だが、原料となる大豆などの仕入れは、円高の恩恵を受けている。衣料製造は秋冬物の受注が低調だが、業界全般では製造（生産者）と販売（小売店）の連携を深める動きがある。

商業

「残暑関連商品が伸び」

諏訪地方の8月の天候は、台風や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、客足にも影響した。新規開店の大型店周辺では競争が激化している反面、既存店を訪れる新規顧客の増加などの効果が見られる。秋の小宮御柱祭などのイベントに向け、オードブルや酒、飲料などの売上増加が見込まれている。自動車販売（軽を除く）は、諏訪地方の8月の車庫証明件数が777件で、前年同月比38件増加（5.1%）した。月によって増減があるが、4月からの累計では前年同期比41件、0.9%の減少となっている。燃費データ偽装問題は、いまだに尾を引いている。

衣料	夏物の伸びは前月までで、残暑が厳しく秋物が伸び悩んだ。
食料品	鮮魚は台風の影響などで近海物の品薄が続き、高止まりしている。精肉関連も値上がりが続く、野菜は葉物関連が値上がりしつつある。一方、残暑の影響でアイスクリームの売上が好調で、全国の姉妹店で売上がベスト3に入った店舗もある。ビールや清涼飲料なども売れ行きが伸びた。
家電製品	前半はエアコン販売が好調に推移した。地デジ化時に、一斉に出た薄型や液晶テレビの買い替え需要が見られる。
自動車	県内の8月の新車新規登録台数は、登録車が3ヶ月ぶりに増加し、軽自動車は20ヶ月連続で減少した。全体では前年同月比143台減少（△2.0%）の6,976台で、12ヶ月連続で減少した。
ホームセンター	アウトドア用品は例年通りの動きで、山の日効果は特になかった。花火などのレジャー用品は好調で、除草剤や草刈り機の売上も伸びた。

観光・サービス業

「山の日効果少なく」

8月の諏訪地方は、梅雨明けが遅かった影響や前年同月より土日の数が少なかったことなどで、宿泊者数が伸び悩んだ施設が多い。新たに制定された休日「山の日」の効果も少なかったと見られる。上諏訪温泉などでは前年同月比で宿泊客数が増加した施設もあるが、インバウンドの減少が総体に影響を及ぼしている。高原の観光地などでも宿泊数減の施設が多く、天候不順や大河ドラマの影響で東信地区へ客足が流れたという見方もある。観光バスによる団体利用客も減少している。秋の紅葉シーズンに向けた予約状況は例年より鈍く、今年は大型連休がないことや台風の発生が多いことなどで、落ち込みが懸念されている。

上諏訪温泉	8月の宿泊人数は前年同月に比べて減少した施設が多く、施設別では前年同月比70%台～110%台だった。2～4人の個人客や関越、近畿方面の宿泊客は前年を上回ったが、インバウンドは今年3月以降、前年を下回る月が多く、総体的に減少傾向となっている。すでに忘年会に向けた動きをする施設もあり、冬場の閑散期対策の観光企画が検討されている。
蓼科・白樺湖・車山等	総体的に盆前は不調で、天候が回復した盆以降、回復に転じた施設が多い。山の日が祝日になり、人出が夏休み前半から後半へシフトしたという見方がある。富士見方面では、諏訪湖の花火大会翌日のバスツアーの回遊は少なかった。長距離バスの規制で、バスツアー参加費高騰の影響もある。
下諏訪温泉	宿泊客は増加傾向だが、土産品の売上は減少している。小宮御柱祭のイベントや各種団体の宴会需要は高水準で推移する見通し。
諏訪大社	上社・下社合わせた8月の参拝者数は約8万人。前年同月比では約1万4千人の増加（22.4%）となった。

建設業

「公共工事が増加傾向も先行きは不安定」

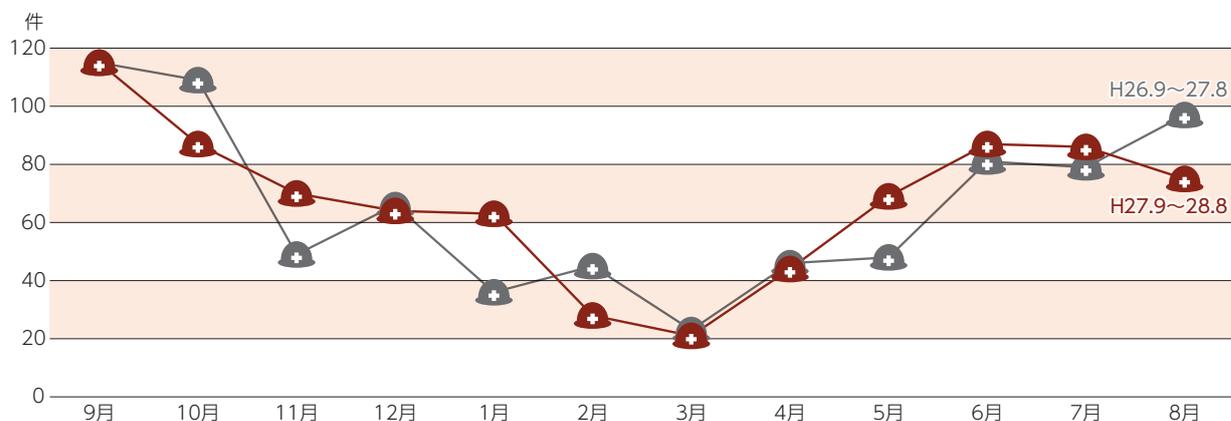
8月の市町村からの受注工事は合計75件、1,365百万円となった。前年同月に比べ、件数は22件、契約金額は83百万円減少した。国県関係の平成28年4～8月の累計公共工事（地元業者受注分）は前年同期累計比で件数、契約金額とも増加している。民間工事は、諏訪地方の7月の新設住宅着工戸数が105戸で、前年同月比33戸増加（45.8%）した。平成28年4～7月の累計も395戸で、前年同期比5戸増加（1.3%）し、前月までの前年同月比減少からやや増加に転じた。ただ、総体的に土木は公共工事が見込めるが、建設は工場などの建設計画が少なく、苦戦を予想する企業が多い。小宮御柱祭への関与状況も受注に影響すると見られる。

公共工事	8月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所18件、林道治山工事関係2件、農地整備課4件、長野国道事務所等国関係2件、県警察1件の合計27件で、契約金額は796百万円だった。平成28年4～8月の累計は59件、2,300百万円で、前年同期の累計比で件数は2件、契約金額は147百万円増加（6.8%）した。 市町村からの8月の受注工事は、建築工事6件700百万円、土木工事及び下水道工事53件509百万円、その他工事16件156百万円となった。前年に茅野市で大型工事があった反動で、前年同月比では減少した。
民間工事	諏訪地方の7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は23戸増加の78戸、「貸家」は8戸増加の22戸、「分譲」は2戸増加の5戸、「給与」は同数の0戸となった。長野県内の7月の新設住宅着工戸数は1,220戸で、前年同月比1.0%増加した。前年同月比の利用関係別では、「持家」が720戸で6.0%増加、「貸家」は382戸で23.2%増加、「給与」はなく、「分譲」は118戸で45.4%減少した。

■諏訪地方の7月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利用 関 係 別								構 造 別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	42	5	20	5	22	0	0	0	0	0	14	3	28	2
諏訪市	28	14	24	12	0	0	0	0	4	2	26	13	2	1
茅野市	17	36	16	21	0	14	0	0	1	1	14	31	3	5
諏訪郡	18	17	18	17	0	0	0	0	0	0	17	15	1	2
合 計	105	72	78	55	22	14	0	0	5	3	71	62	34	10

■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



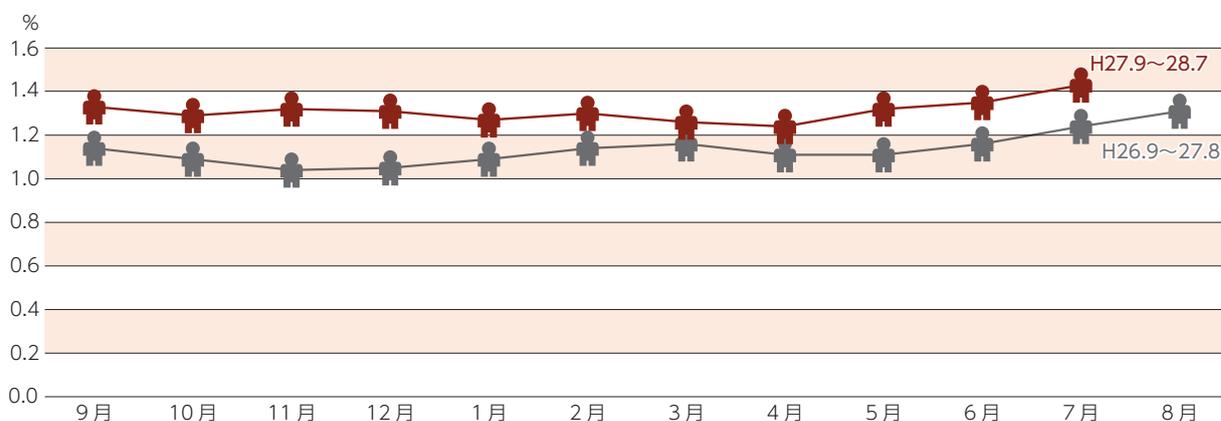
雇用

「諏訪地方の有効求人倍率、平成20年以降初の1.4倍台」

諏訪地方の7月の有効求人倍率は、前年同月を0.19ポイント上回り、前月を0.08ポイント上回る1.43倍となった。平成20年4月以降、1.4倍台は初めてで最高水準。全国や県内平均を上回った。1倍台の維持は28ヶ月連続で、前年同月を上回るのは38ヶ月連続となっている。雇用が安定して求職者が減少しているのが大きな要因と見られている。長野県平均は1.40倍で前月を0.02ポイント下回ったが、1.4倍台は3ヶ月連続で維持している。25ヶ月連続で全国平均を上回り、県内4ブロック全てで、33ヶ月連続前年同月を上回っている。全国平均は前月と同率の1.37倍で、24年10ヶ月ぶりの高水準となった前月の水準を維持した。7月の完全失業率は3.0%で平成7年5月以来、21年2ヵ月ぶりの低水準となっている。

諏訪地方の新規求人数（全数）は1,652人で、前年同月比81人減少（△4.7%）した。要因別では「継続する人員不足」「創業・新分野展開」が増加し、「業務量増大」「欠員補充」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は、「運輸業」「生活関連サービス・娯楽業」で増加し、「飲食店・宿泊業」で減少した。新規求職者数は676人で、前年同月比123人減少（△15.4%）した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は29人で、前年同月比53人減少し、前月比では3人減少した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 自動車関連の見通しが非常に不透明で、単価引き下げ要請も多く、収益確保が厳しい（金属製品製造業）。
- 都内の駅のホームの安全対策や乗車率緩和の動きに伴い、改札機や券売機、ホームドアなど、関連の発注が増加するのは（一般機械製造業）。
- 主要取引先からの受注動向によって、浮き沈みを繰り返している（電気機械製造業）。
- 円高の進行程度が心配。北米向けは為替の変動によって利益が左右されるので、数量の確保だけでは安心できない（輸送用機械製造業）。
- 諏訪地方の求人倍率が高いのは、人口が減少していることも要因では。製造業者数は年々減少しており、危機的な状況だと思う（精密機械製造業）。
- 盆期間中の来店が非常に多く、昼の時点で用意したスープが終了した。帰省客の利用と、大型店開店の影響で一見客の利用が多かった（飲食店）。
- 家族連れなどの一般客は増加しているが、団体客が減少している。団体ツアーの減少は顕著で、近距離の中京圏へPRする（観光業）。
- ここにきて一気に入札案件が増加したが、落札できても下請け業者と技術者のやりくりがうまくできるか分からない（建設業）。
- 御柱に関与している施主が多いため、なかなか話が進まない。小宮御柱祭終了まではこの状態が続くと思う（建設業）。

長野県の金融経済動向

(2016年9月6日) 日本銀行 松本支店

— 2016年の公表日の前営業日時点で利用可能であった情報をもとに取りまとめ。

長野県経済は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は緩やかに減少している一方、住宅投資は持ち直しの動きがみられる。この間、設備投資は緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。また、個人消費は一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。

以上のような最終需要のもとで、生産は新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得は、全体として着実な改善が続いている。

生産

半導体関連・電子部品等では、スマートフォン向けの増勢一服のほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

自動車関連では、北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

機械・同関連部品等では、工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などがみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。

飲料では、生産は横ばい圏内で推移している。

個人消費

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、7月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。

家電販売は、7月は前年を上回った。

自動車販売は、8月は前年を下回った。

公共・住宅投資

公共工事請負額をみると、7月は国、独立行政法人等の発注分が増加したものの、県、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。

住宅着工戸数をみると、7月は分譲が減少したものの、持家、貸家が増加したことから、全体では前年を上回った。

雇用・所得

有効求人倍率をみると、7月は新規求人数が減少したことから、低下した。所得面では、6月は常用雇用者数が前年を上回ったものの、一人当り名目賃金が前年を下回ったことから、雇用者所得は前年を下回った。

物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)をみると、7月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>